

タケシール

#2000黒

防水

ハンター型ウレタン防水材

■ 竹林化学工業株式会社

タケシール#2000 黒

施工法

下地	下地補修	プライマーの塗布
<ul style="list-style-type: none"> ◆ じんあい、油脂、さび、レイタンス等が付着していないこと。 ◆ 施工面は、十分に乾燥していること。 ◆ 水勾配は、指定勾配になっていること。 ◆ 水切り、打ち継ぎ目地などが仕上がっていること。 ◆ 配管、ドレン、排水落とし口は、その周辺の水はけがよく、堅固に取り付けてあり、欠損のないこと。 ◆ 突起物（鉄筋、番線）は、下地面より深く切断し、モルタル補修を行い平滑にする。 ◆ 古い防水層に塗り重ねる場合は、ご相談ください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水勾配が取れていない場合は、タケモルカチオンEV（乳剤）タケモルフィラーA-1（薄付け用）タケモルフィラーA-2（厚付け用）にて手直ししてください。 ● 下地モルタル面に、欠損、凹みや、劣化しモルタル表面が荒れている場合は、タケモルカチオンEV（乳剤）タケモルフィラーA-1（薄付け用）タケモルフィラーA-2（厚付け用）にて手直ししてください。 ● 金属面の旧塗膜及び錆は、ペーパーやワイヤーブラシ等にて取り除いてください。 ● クラック処理① 小さいクラックの場合、亀裂に沿ってプライマーを塗布し、硬化後タケシールウレタン防水材の混合液をコテ、ヘラ等にて刷り込む様に塗布します。 ● クラック処理② 大きいクラックの場合は、亀裂部分をサンダーにてUカットし、プライマーを塗布硬化後、タケシールウレタン速乾ウレタンシーラントを充填し、ヘラ又はコテ等にて平滑に仕上げます。 ● 目地補修(痛みが激しい場合) 既存の目地材を除去し、充填材の深さを調節する為、バックアップ材を取り付け、タケシール速乾ウレタンシーラントを充填し、平滑に仕上げます。 	<p>■ タケシールプライマーは、必ず2回以上塗布してください。塗り残しがある場合、タケシール#2000黒塗布の際、ピンホールや膨れの原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タケシールAE211プライマー（2液水系エポキシプライマー） 配合比 1 : 1 標準塗布量 0.3kg/m² 塗布要領 1回目 A/B混合液をよく浸透する様ローラー、刷毛にて十分に塗布します。 0.15kg/m² 2回目 約2時間以上経過後、A/B混合液を再度塗布します。 0.15kg/m² ・ プライマーは他、タケシールE-500プライマー（2液溶剤型エポキシプライマー）や、タケシールNo.400プライマー（1液溶剤型ウレタンプライマー）も使用できます。

タケシール#2000 黒	取り扱い時の注意事項
<p>標準塗布量 2.0kg/m²</p> <p>▲A液、B液を1：2の重量で充分に機械攪拌混合します。攪拌不足は、硬化不良の原因となります。缶の四隅まで3～5分充分に機械攪拌してください。</p> <p>▲よく攪拌された混合液の河使時間は、次の通りです。</p> <p style="padding-left: 40px;">25℃/約25時間</p> <p>夏季は、約10分位になります。流動性のある間に塗り広げてください。</p> <p>▲水平面施工の際は、混合時にタケシールNo.100シンナーを5%以内添加しますと作業が容易となります。</p> <p style="padding-left: 40px;">シンナーを入れ過ぎ、途中添加は亀裂の原因となります。</p> <p>▲立上り、出隅部分では、塗膜が薄くなります。たれ止め材や補強クロスを併用し、十分な膜厚を確保してください。</p> <p>▲必要分小分けして使用する場合は、計量器を使用してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プライマー、タケシール#2000黒使用時には、火気に御注意ください。 ・ラッカーシンナー、塗料用シンナーは絶対使用しないでください。 ・夏季での屋上施工は、なるべく炎天下を避け、早朝又は、夕方に行ってください。 ・多雪・寒冷地での施工は、タケシールAE211プライマー又は、タケシールE-500プライマーの使用と、補強材として補強クロスを併用してください。 ・タケシール#2000黒で施工を終了し、黒色のまま放置されますと、劣化の原因となります。トップコートの施工又は、押さえモルタルの施工をお願いします。 ・新設コンクリートへの施工は、夏季で1ヶ月、冬季で3ヶ月以上乾燥養生後、表層のレイトランスをペーパー、サンダー等にて除去した上で、塗装してください。 ・施工時又は、硬化時間内に降雨が予測される場合は、施工を避けてください。 ・冬季低温時(15℃以下)では、専用の硬化促進剤を御利用ください。硬化時間が早くなりますが、可使用時間も早くなりますので、使用には御注意ください。
<p>仕上げ</p>	
<p>★仕上げ材（露出防水工法）</p> <p style="padding-left: 20px;">タケシールシルバートップ</p> <p style="padding-left: 40px;">(1液溶剤型ウレタンシルバー)</p> <p style="padding-left: 60px;">仕立て 18kg缶</p> <p style="padding-left: 20px;">タケシール#3000 トップコート</p> <p style="padding-left: 40px;">(2液溶剤型ウレタントップコート)</p> <p style="padding-left: 60px;">仕立て 16kg組・4kg組</p> <p style="padding-left: 60px;">色 グレイ・グリーン</p> <p style="padding-left: 60px;"> ライトグリーン</p> <p>★仕上げ（押さえモルタル工法）</p> <p>押さえモルタルは別途工事願います。</p> <p>モルタルの厚みは、約5cm以上打設してください。</p>	

タケシール#2000黒

タケシール#2000黒は、非歩行用の非露出ノンタールウレタン防水材です。

ウレタン樹脂特有のゴム弾性、伸縮性、耐久性に優れた防水材として、長期にわたり性能を支持し、建物を雨漏りからお守りします。

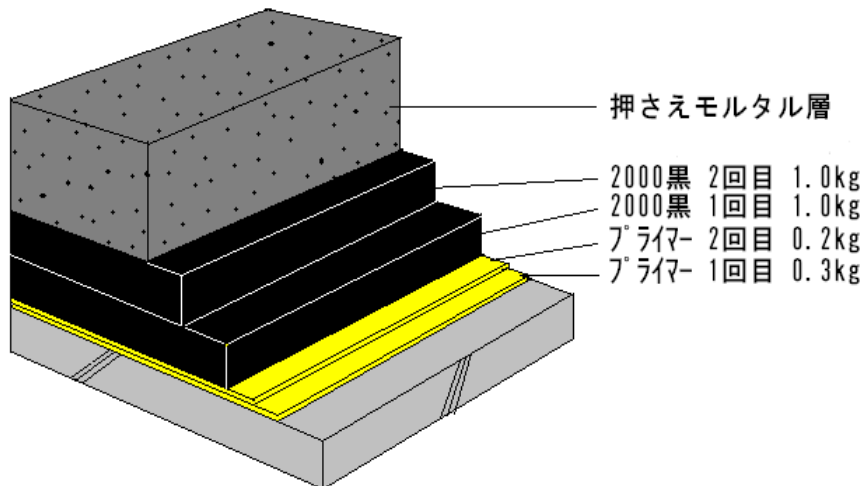
用途 屋根、屋上、ベランダ、バルコニー、浴室、トイレ、厨房などの防水。

荷姿 18kgセット (A液 6kg缶・B液 12kg缶)
9kgセット (A液 3kg缶・B液 6kg缶)

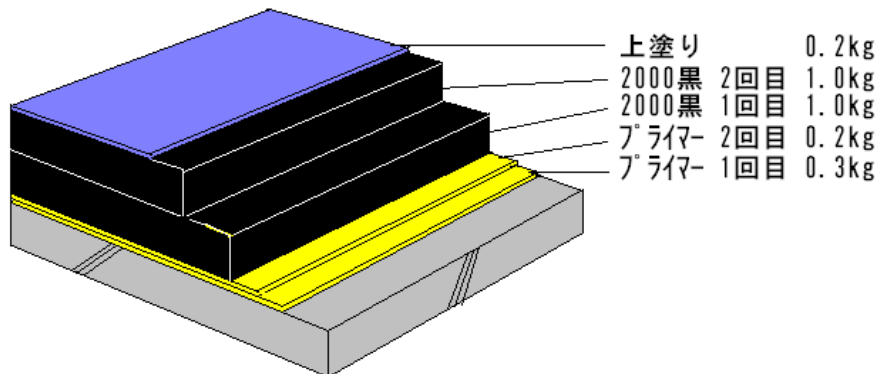
標準塗布量 2.0kg/m²以上

標準施工法

A-1 (押さえモルタル工法)

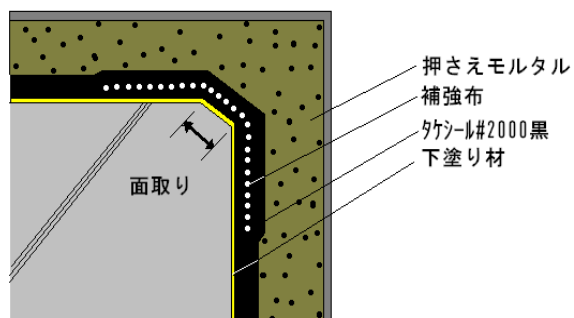


AS-5 (露出防水工法・非歩行)

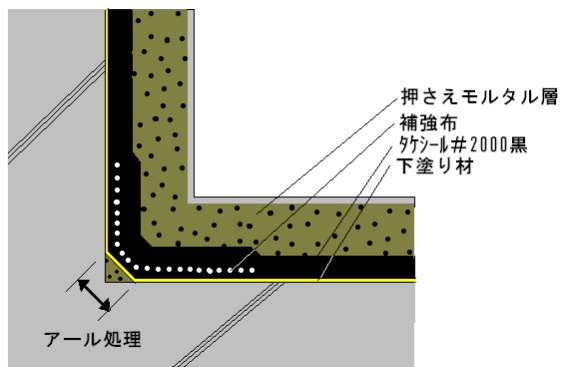


施工納まり図

出隅部分

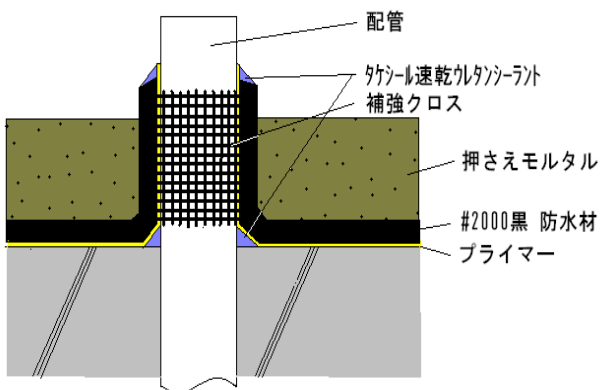


入り隅部分

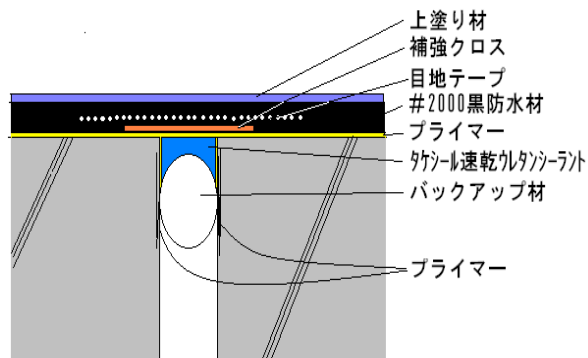


- ・ 出隅部分は、サンダー研磨にて面取りします。
- ・ 入り隅部分は、樹脂モルタル等にてアール処理します。
- ・ 出隅、入り隅部分は、補強クロスを併用します。

貫通部分



絶縁工法 (目地、クラック処理)



- ・ 配管廻りに補強クロスをタケシール#2000黒にて貼り付けます。
- ・ クラック部分も絶縁工法を行います。

塗布可能面積 (標準塗布量)

工 法	18kgセット	9kgセット
A-1工法	9㎡	4.5㎡
AS-5工法	9㎡	4.5㎡

タケシール#2000 黒

性状

試験項目	A液(主剤)	B液(硬化剤)
外観	淡黄色液体	黒色粘調液体
粘度	10Pa・s/20℃	10Pa・s/20℃
硬度	60 (JISK 6301 スプリング式)	
比重	1.01	1.40
硬化物比重	1.30	

試験項目			試験結果				JISA6021 ウレタンゴム系 1類の規定
			1	2	3	平均	
引張性能	引張強さ N/cm ²		568.8	559.0	519.8	549.2	245.2 以上
	破断時伸び率 %		810	805	795	800	450 以上
	抗張積 N/cm ²		9214.6	8999.9	8264.8	8826.4	2924.0 以上
引張性能	引張強さ N/cm ²		178.5	180.4	188.3	182.4	147.1 以上
温度 依存性	引張強さ比 %	-20℃	262.1	263.2	254.7	260.0	100 以上 300 以下
		+60℃	72.4	71.9	75.5	73.3	60 以上
	破断時のつかみ間の伸び率 %	-20℃	320	355	319	330	250 以上
		+20℃	587	579	570	580	300 以上
		+60℃	489	486	480	480	200 以上
加熱伸縮性状	伸縮率 %		-0.4	-0.5	-0.4	-0.4	-4 以上、1 以下
劣化処理後の 引張性能	引張強さ比 %	加熱処理	143.1	140.4	117.0	133.5	80 以上,150 以下
		促進暴露処理	151.7	138.6	147.2	145.8	80 以上,150 以下
		アルカリ処理	105.2	105.3	101.9	104.1	60 以上,150 以下
		酸処理	110.3	107.0	101.9	106.4	80 以上,150 以下
	破断時の伸び率 %	加熱処理	760	755	705	740	400 以上
		促進暴露処理	795	800	785	790	400 以上
		アルカリ処理	815	810	800	810	400 以上
		酸処理	800	825	795	810	400 以上
伸び時の劣化性状	加熱処理		ひび割れ及び変形なし				ひび割れ及び著しい変形を認めないこと
	促進暴露処理		ひび割れ及び変形なし				
	オゾン処理		ひび割れ及び変形なし				
たれ抵抗性能	たれ長さ mm						
	しわの発生		しわの発生を認めず				しわの発生を認めないこと

試験実施年月日 平成3年3月12日～平成3年4月11日